

# 研究業績一覧

楠見 友輔 (Yusuke KUSUMI)

令和3年10月1日時点

## 1 論文（査読付き）

- 1 楠見友輔（2016） 日本における障害児と健常児の交流教育に関するレビューと今後の課題, 特殊教育学研究, 54(4), 213-222,  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/tokkyou/54/4/54\\_213/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/tokkyou/54/4/54_213/_article/-char/ja/)
- 2 楠見友輔（2017） 知的障害児との交流の質を規定する条件：交流経験の語りの質的分析, 特殊教育学研究, 55(4), 189-199,  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/tokkyou/55/4/55\\_189/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/tokkyou/55/4/55_189/_article/-char/ja/)
- 3 楠見友輔（2018） 学習者の「媒介された主体性」に基づく教授と授業：社会文化的アプローチの観点から, 教育方法学研究, 43, 49-59,  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nasemjournal/43/0/43\\_49/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nasemjournal/43/0/43_49/_article/-char/ja/)
- 4 Yusuke Kusumi & Takayuki Koike（2019） The Social Identity of Adolescent Students with Low Vision during Interschool Interactions with Sighted Students: Voice and Symbolic Interaction, Journal of Special Education Research, 7(2), 89-100,  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/specialeducation/7/2/7\\_17-12/\\_article](https://www.jstage.jst.go.jp/article/specialeducation/7/2/7_17-12/_article)
- 5 楠見友輔・小池貴之（2019） 交流による視覚障害理解の構造：晴眼児の交流経験についての語りの分析, 特殊教育学研究, 57(1), 37-47, <https://ci.nii.ac.jp/naid/40021977316/>
- 6 楠見友輔（2019） お金の支払い学習における中度知的障害生徒の学習過程と教師のフィードバック：社会文化的アプローチから, 発達心理学研究, 30(2), 101-112,  
[http://www.jsdp.jp/contents/~cmhenshu/paper/Journal\\_con/abst/jdp30a.html#2\\_4](http://www.jsdp.jp/contents/~cmhenshu/paper/Journal_con/abst/jdp30a.html#2_4)
- 7 楠見友輔（2019） ダウン症児の文章理解の学習：社会文化的アプローチによる一生徒の学習過程の分析から, 教育心理学研究, 67(4), 330-342,  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep/67/4/67\\_330/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep/67/4/67_330/_article/-char/ja/)
- 8 楠見友輔（2021） ニュー・マテリアリズムによる教育研究の可能性：物と人間の関係に焦点を当てて, 教育方法学研究, 46, 25-36, <https://ci.nii.ac.jp/naid/40022647942/>
- 9 楠見友輔（2021） 知的障害生徒が教室談話に参加する過程：社会文化的アプローチから, 発達心理学研究, 32(3), 134-147,  
[https://www.jsdp.jp/contents/~cmhenshu/paper/Journal\\_con/jdp32.htm](https://www.jsdp.jp/contents/~cmhenshu/paper/Journal_con/jdp32.htm)

## 2 論文（査読無し）

- 1 楠見友輔・小池貴之（2017） 視覚特別支援学校の高等部生徒にとっての学校間交流の意味づけと課題, 東京都立文京盲学校研究研修部 平成29年度研究集録, 50-54

- 2 楠見友輔 (2017) 交流による知的障害理解の構造：障害への解釈行為としての語りに着目して, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 56, 167-180, <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/51252#.YVljMmLP01l>
- 3 楠見友輔 (2018) 知的障害児との交流における健常児の集団カテゴリー意識を規定する条件, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 57, 369-380, <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/51310#.YVljrWLP01l>
- 4 楠見友輔・小池貴之 (2018) インクルーシブな社会に向けた互恵的対等さの構築：学校間交流における弱視児と晴眼児の社会的アイデンティティの分析, 東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要, 3, 15-29, [https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=51144&item\\_no=1&page\\_id=28&block\\_id=31](https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=51144&item_no=1&page_id=28&block_id=31)
- 5 楠見友輔 (2019) 知的障害生徒の経験を基にした交流及び共同学習のカリキュラム開発, 交流実践報告 平成 30 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 (文部科学省) : 学校における交流及び共同学習を通じた障害理解 (心のバリアフリー) の推進, 76-103
- 6 楠見友輔 (2020) 教材教具と子どもの主体性, 障害児基礎教育研究会研究紀要, 27, 4-19.

### 3 学会発表 (国際会議)

- 1 Yusuke Kusumi (2017) Scaffolding through the Use of Interactive White Board: A Case Study of Students with Intellectual Disabilities in Japan, World Association of Lesson Studies International Conference (WALS) 26<sup>th</sup>, <https://www.walsnet.org/2017/program/program/pdf/pp-g4.pdf>
- 2 Yusuke Kusumi (2017) Through Inverse Inequality toward Reciprocal Equality, Joint International Seminar Education for Diversity
- 3 Yusuke Kusumi (2019) Understanding the Participation Structure in School for Students with Intellectual Disabilities: Applying Social Network Analysis to Classroom Discourse, World Education Research Association (WERA) 10<sup>th</sup>, <https://www.weraonline.org/page/WERAFocalMeeting2019>
- 4 Yusuke Kusumi (2021) Analyzing Learning Mechanisms of a Student with Intellectual Disabilities in Lessons of Money Management: From the Critical Realist Perspective, WERA VIRTUAL FOCAL MEETING 2021, [https://mcusercontent.com/cc8a3da6b4d74afa2c0c80d55/files/952706ed-f91e-672e-501f-015ce7eb0778/WERA\\_2021\\_Focal\\_Meeting\\_Programme\\_06.07.2021.pdf](https://mcusercontent.com/cc8a3da6b4d74afa2c0c80d55/files/952706ed-f91e-672e-501f-015ce7eb0778/WERA_2021_Focal_Meeting_Programme_06.07.2021.pdf)

### 4 学会発表 (国内学会 口頭発表)

- 1 楠見友輔 (2015) 交流後の高校生の語りにみる障害児への印象における多観点・多規準視点：他者評価と自己への言及を同時に行う交流的評価に着目して, 日本教育方法学会第 51 回大会
- 2 楠見友輔 (2017) 知的特別支援学校の教室談話分析：生徒主導の談話シーケンス形成を目指した教師の足場かけに着目して, 日本教育方法学会第 53 回大会

- 3 楠見友輔（2018） 場面緘黙のある軽度知的障害児の学習過程と教師の教授の特徴：特別支援学校における数学の授業の事例分析，日本教育方法学会第 54 回大会
- 4 楠見友輔（2021） ニュー・マテリアリズムによる発達概念の再考，日本発達心理学会第 32 回大会

## 5 学会発表（国内学会 ポスター発表）

- 1 藤江康彦・石島照代・柿原賢二・楠見友輔・遠山裕一郎・安江紗那子（2015） 教師の学習の契機としての校種間連携（3）：新任教師の語りにみる自己・文化・制度の輻輳，日本教育心理学会第 57 回総会
- 2 石島照代・藤江康彦・柿原賢二・楠見友輔・遠山裕一郎・安江紗那子（2015） 教師の学習の契機としての校種間連携（4）：アイデンティティと成員性の獲得を促す「小中ブリッジ」，日本教育心理学会第 57 回総会
- 3 楠見友輔（2015） 「交流及び共同学習」内での高校生の障害児に対する関係認識：インタビューの質的分析を通して，日本特殊教育学会第 53 回大会
- 4 楠見友輔（2015） 高校生の交流による障害理解過程：交流及び共同学習の経験の語りから，日本質的心理学会第 12 回大会
- 5 楠見友輔（2016） 高校生の語りにみる健常児の知的障害理解の過程：交流経験の語りの解釈学的現象学的分析から，日本質的心理学会第 13 回大会
- 6 楠見友輔（2016） 交流教育における健常児にとっての接触の質を構成する要素，日本特殊教育学会第 54 回大会.
- 7 楠見友輔・小池貴之（2018） 交流経験の語りにおける視覚障害理解の構造：多重対応分析を用いて，日本教育心理学会第 60 回総会
- 8 楠見友輔（2019） 知的障害特別支援学校における生徒の話し合いと教師の介入の特徴，日本教育心理学会第 61 回総会
- 9 楠見友輔（2019） 日本の心理学・教育学における創造性研究の計量書誌学的分析：1975 年から 2019 年までの書誌情報をもとに，日本教育心理学会第 62 回総会
- 10 楠見友輔（2020） 知的障害児のインクルーシブ教育の課題：日米の教育制度の実態の比較から，日本特殊教育学会第 58 回大会
- 11 楠見友輔・藤井梓・長澤洋信・富永光昭（2021） COVID-19 が知的障害児の学習にもたらした影響（1）：特別支援学校教員の休校に関する語りのテーマ分析，日本教育心理学会第 63 回総会
- 12 藤井梓・楠見友輔・長澤洋信・富永光昭（2021） COVID-19 が知的障害児の学習にもたらした影響（2）：特別支援学校教員の学校再開に関する語りのテーマ分析，日本教育心理学会第 63 回総会

## 6 学会発表（国内学会 自主シンポジウム）

- 1 楠見友輔・中村晋・石飛了一・磯山多可子・米田宏樹（2016） 交流及び共同学習の事例を探究する：知的障害児・健常児にとっての交流目的と評価，日本特殊教育学会第 54 回大会，（企画・話題提供）
- 3 楠見友輔・中村晋・上飯屋祐介・磯山多可子・武富博文（2018） 特別支援教育における「主体性」「対話」の意味を考える，日本特殊教育学会第 55 回大会，（企画・話題提供）
- 4 楠見友輔・浅間耕一・中村晋・石飛了一・高岸康文・中島弘貴・藤原亮治・米田宏樹（2018） 交流及び共同学習の事例を探究する（2）：子どもの学習をどのように評価するか，日本特殊教育学会第 55 回大会，（企画）
- 5 司城紀代実・岡澤慎一・楠見友輔（2019） 特別支援教育における実践研究の在り方：研究者はいかに実践研究にかかわるか，日本特殊教育学会第 57 回大会，（話題提供）
- 6 楠見友輔・中村晋・細谷一博・李熙馥・齊藤由美子（2019） 交流及び共同学習の事例を探究する（3）：学術的な視点に立った子どもの経験に基づく実践の開発，日本特殊教育学会第 57 回大会，（企画・話題提供）
- 7 荒巻恵子・Hennessy Sara・Kershner Ruth・Trigo-Crapes Ana Laura・司城紀代美・池田彩乃・楠見友輔（2021） インクルーシブ教育学のための対話的教育の実践と課題，日本特殊教育学会第 59 回大会（話題提供）
- 8 冨永光昭・大崎博史・長澤洋信・宮本朋子・滑川真衣・松原勝己・山本隆史・楠見友輔（2021） 特別ニーズ防災教育のこれまでとこれから，日本特殊教育学会第 59 回大会（指定討論）
- 9 楠見友輔・伊藤靖・松本健太郎（2021） 教材はどのようにして言葉なしの学習を可能にするのか：教材のアッサンブラージュと重度知的障害・重複障害児の学習の関係，日本特殊教育学会第 59 回大会（企画・話題提供）

## 7 書籍

- 1 楠見友輔（2019） 第 8 章 異質な集団との交流経験についての語りの分析：知的障害児との交流を行った健常児への再生刺激法インタビューをもとに，秋田喜代美・藤江康彦（編著） これからの質的研究法：15 の事例にみる学校教育実践研究，159-175，東京図書，<https://www.tokyo-tosho.co.jp/books/978-4-489-02307-1/>
- 2 楠見友輔（2020） 第 8 章 3 節 状況論的アプローチの学習理論、第 1 3 章 子どものニーズに応じた教育，児玉佳一（編著） やさしく学ぶ教職課程 教育心理学，82-83，135-148，学文社，<https://www.gakubunsha.com/book/b508554.html>

## 8 学位論文

- 1 楠見友輔（2016） 交流及び共同学習への参加者の活動・自己・他者・障害の理解：知的ニーズを有する中学生との交流を行った高校生の経験の現象学的解釈学的分析を通して，東京大学大学院教育学研究科修士論文
- 2 楠見友輔（2020） 授業における知的障害児の学習と参加のメカニズム：媒介された主体性に着目して，東京大学大学院教育学研究科博士論文

## 9 競争的資金の研究課題

- 1 楠見友輔 (2016.2-2016.2) Through Inverse Inequality toward Reciprocal Equality, 東京大学大学院教育学研究科・教育学部グローバル・リーダー育成、スウェーデン研修プログラム 2016 年度
- 2 楠見友輔・小池貴之 (2016. 10-2017. 3) 視覚障害児と健常児の効果的な学校間交流の開発, 学校教育高度化・効果検証センター 若手研究者育成プロジェクト, 300,000 円, <https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/news/1156/>
- 3 楠見友輔 (2017. 4-2019. 3) 交流教育における知的障害児の自己理解形成とその過程, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費, 2,100,000, <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-17J03331/>
- 4 楠見友輔 (2021.4-2022.3) 子どもの学習を問い直す: 社会文化的アプローチによる知的障害特別支援学校の授業研究, 東京大学学術成果刊行助成, 848,188, [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03\\_kankojosei.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03_kankojosei.html)
- 5 楠見友輔 (2021.4-2022.3) 子どもの学習を問い直す: 社会文化的アプローチによる知的障害特別支援学校の授業研究, 日本学術振興会研究成果公開促進費, 1,700,000, [https://www.jsps.go.jp/j-grants/inaid/13\\_seika/data/seika\\_saitaku/R\\_03\\_seika\\_saitaku.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-grants/inaid/13_seika/data/seika_saitaku/R_03_seika_saitaku.pdf)
- 6 楠見友輔 (2020.4-2023.3) 人間の高度な学習過程にみられる知識の創造のメカニズムの解明, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費, 4,420,000, <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20J00219/>